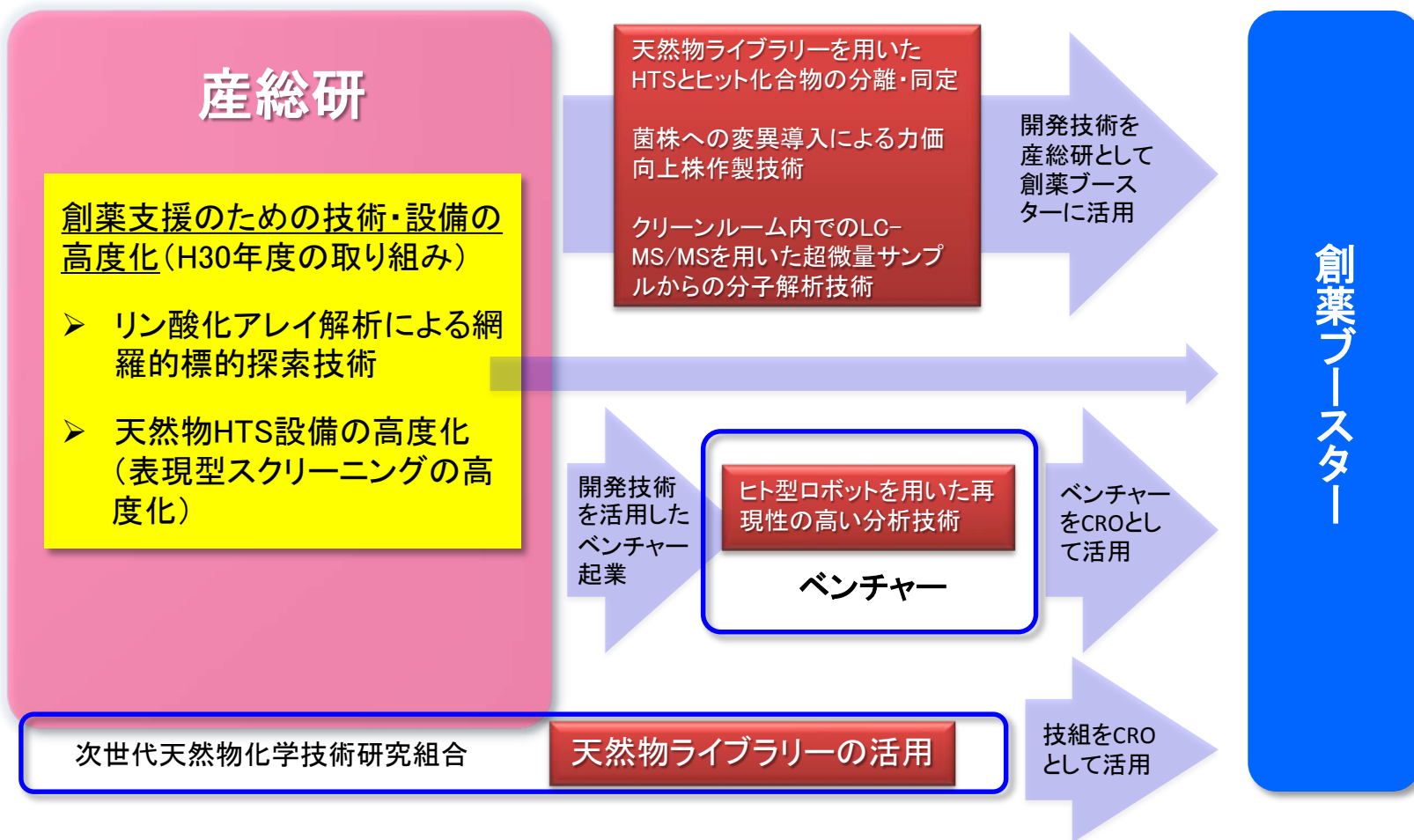


産業技術総合研究所における 支援活動状況

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
平成29年 9月27日

■ 支援体制

産総研インハウス予算で創薬基盤技術の開発並びに高度化を実施し、創薬ブースターに提供する。また、一部の技術に関しては、これらを核とするベンチャーを起業し、将来的に創薬ブースターに活用できるCROとしての機能を持たせる。




創薬支援ネットワーク運営会議、研究会議で産総研が支援するテーマ並びにその実施計画を決定し、それに従って支援を実施している。現時点で、1テーマの支援を実施している。

－ 創薬支援ネットワークのテーマのうち産業技術総合研究所による支援テーマ －

新規支援テーマ*	ステージ	産総研による支援開始年度	課題名	代表研究者所属	支援方法
	リード最適化	平成26年度	新規抗生物質の開発	関水和久 帝京大学医真菌研究センター	力価向上**
	標的実用化検証	平成26年度	脳梗塞治療を目的としたtPA併用剤の探索	下畑享良 新潟大学脳研究所	分子設計に関する技術相談 (モデルの作成と先端研究者との連携体制構築)
	スクリーニング	平成26年度	先天性乏毛症治療薬の探索	青木淳賢 東北大学大学院薬学研究所	天然物ライブラリーを用いたHTS
		平成26年度	神経再生促進作用を持つ脊髄損傷治療薬の探索	武内恒成 愛知医科大学医学部	天然物ライブラリーを用いたHTS
		平成26年度	子宮内膜症に対するペプチド治療薬の探索	杉原一廣 浜松医科大学医学部	治療薬の評価 (モデル動物を用いた体内動態評価等を実施)
	リード最適化	平成26年度	熱帯性ウイルスへの新規ワクチンの開発	長谷川秀樹 国立感染症研究所	分子設計に関する技術相談 (モデルの作成と先端研究者との連携体制構築)

* 前回協議会以降、新規に支援を開始したテーマ

** 菌株の培養条件の変更、変異処理や遺伝子操作による代謝経路の変更を行い、目的生産物の生産性を向上させること。

 : 支援終了テーマ

■ 概算要求

平成30年度予算案では、インハウス予算として20.2億円が盛り込まれている

■ 創薬支援方針

1、新規の支援

(1)6月協議会にて、AMEDが提示した技術・設備の高度化に対する取組み

- 天然物HTS設備の高度化(表現型スクリーニングの高度化)
- ケモプロテオミクス技術(リン酸化アレイ解析のみ)

(2)その他

- 上記高度化技術に関しては、年度途中からでも支援に耐えうる段階に達したもののから創薬ブースター事業に利用する。

2、継続の支援

- 天然物ライブラリーを用いたHTSヒット化合物の分離・同定サービス
- 天然物ライブラリー → 技術組合の資産
- ヒト型ロボットを用いた再現性の高い分析技術 → ベンチャー起業によりCROとして利用
- クリーンルーム内でのLC-MS/MSを用いた超微量サンプルからの分子解析技術
- 菌株の変異導入による力価向上株作製技術

3、その他

- 創薬の加速を目指した基盤技術の高度化
(ステルスRNAベクターを用いたiPS細胞作製技術の高度化、糖鎖マーカー探索技術開発、等)